

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	児童期、青年期、そして、成人の利用者のライフステージに応じた支援やサポートについて常に新しい取り組みを行っています。
	内容	啓光学園は、10名の知的障害児と40名の知的障害者が暮らす入所の施設です。日中での活動と、サポートを通じて、充実した生活を送れる施設であることを目指しています。また、児童期、青年期、そして、成人の利用者の一人ひとりがより良い人生となるよう、ライフステージに応じた支援やサポートを行っています。地域のニーズに対する支援は、その時々、その状況によって大きく関わり方が変わってきます。そのため事業所は行政や関係機関と連携や協力体制が重要と考えて事業所内外で常に新しい取り組みを行っています。
2	タイトル	職員への研修の機会を提供し、専門の技術向上に取り組んでいます。
	内容	定期的に業務マニュアルを使用し、職員の知識や技術向上の為、研修の機会を提供しています。二人一組でOJTを行うなど職員への周知を図っています。年間の研修受講計画を立て新任職員研修、中堅職員研修、施設体験研修、自閉症セミナーなどに参加する派遣予定職員を決め、皆が学べるように支援しています。上司とのショートミーティングでの助言や、今年から人事考査制度と研修計画をリンクさせた人材育成計画を策定しており、上司面接を四半期に一度行い、目標評価シートで確認するなど職員のレベル向上を図っています。
3	タイトル	子どもが職員以外の人と交流できる機会を用意しています。
	内容	職員は子ども向けの支援となる情報が出た場合は、職員が率先して連れ出すようにしています。地域資源(祭り、買い物、宿泊旅行、美術作品展、福祉フェスタ)は、子どもにとって外部との交流の機会となる為、社会性の成長を促しています。地域の夏祭りには三人の職員が約十人の利用者・子どもを引率して共に楽しむなど、外出の機会は自分の振る舞いの表現の場になり、地域社会での挨拶やマナーを知り社会性を育てる、子どもの成長の証となる良い機会になっています。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	業務の効率化のスピード感のある取り組みにさらに期待します。
	内容	事業所はここ数年、スピード感のある業務改革を進めています。現在、業務内容、勤務時間、勤務時間内の役割分担等、主任、班長を中心に改革を検討中です。周りを取り囲む福祉業界の環境は厳しいものがあります。人員不足、職員の業務負担増など課題は多くあると思われますが今後は労使協働で業務効率化プロジェクトを組み音声入力や動画、写真等を取り入れたIT化等で新しい事務業務のあり方や支援方法のあり方を検討して職場の働き方改革を含めた業務効率化の取り組みに期待します。
2	タイトル	業務マニュアルの情報量が多い為、見やすくする工夫が望まれます。
	内容	職員の一人ひとりの業務の取り組み方を統一する為に、業務マニュアルを作成しています。定期的に支援職員へは研修を行い、周知するようにしています。日常支援する中で、不備や欠落事項が生じた場合は、職員からの意見を反映して半期に1回、主任、班長が見直しを行っています。業務マニュアルの中には必要な手引書やマニュアルが整理されていますが、情報量が多いこともあり、職員からの意見を赤字で訂正しても、支援への活用が見やすくできるよう、項目を整理するなどの工夫が望まれます。
3	タイトル	子どもにゆとりある生活を提供し、豊かに成長していく支援に期待しています。
	内容	今年度は、職員の中から現在3名からなるプロジェクトチームを立ち上げ、施設の生活環境改善や子どものQOLの向上に向けた取り組みを始めます。意見や苦情を細かく聞けるように子どもを温かく見守り、遊びの時間や公園の有効利用を目指して取り組んだり、外でのボール遊び等を含めた改善活動に乗り出しています。設置したパソコンは一日一人1時間以内の使用にするなど施設内のルールや課題を解決して、子どもが豊かに成長する環境を整えるプロジェクトが、今後も発展していく事を期待しています。